

VIII-2 簡易水道事業

経営比較分析表（令和元年度決算）

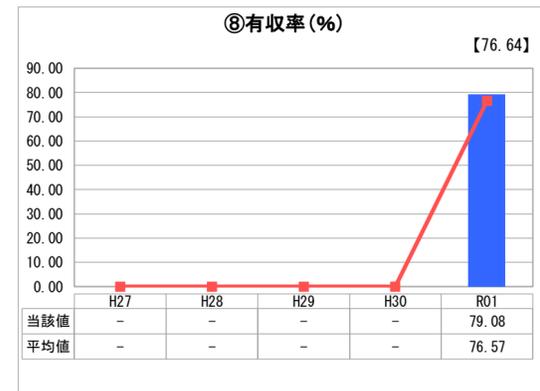
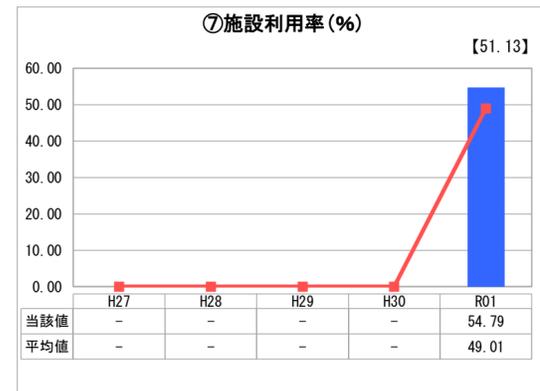
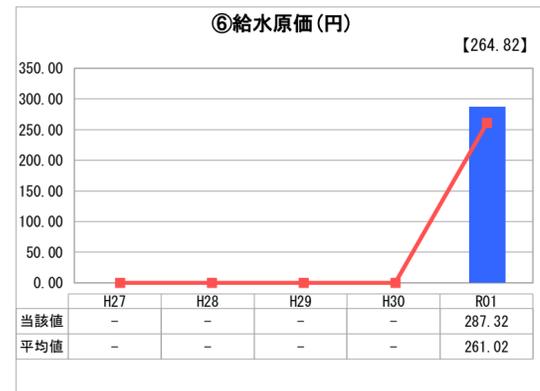
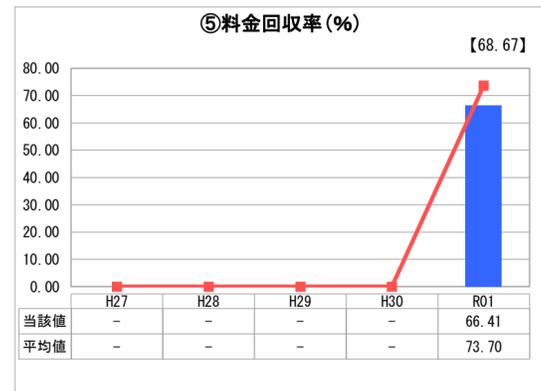
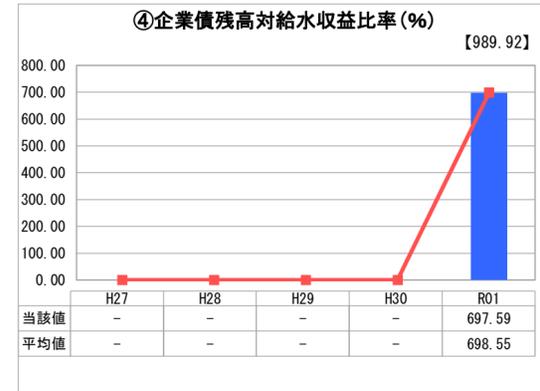
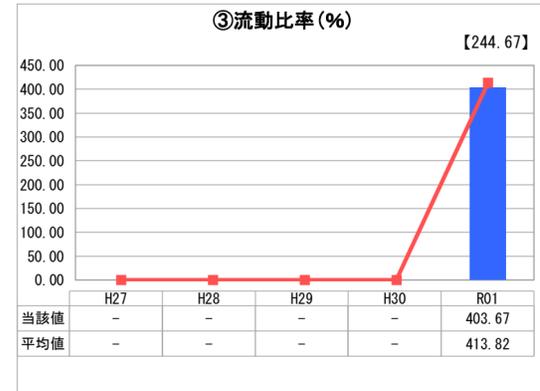
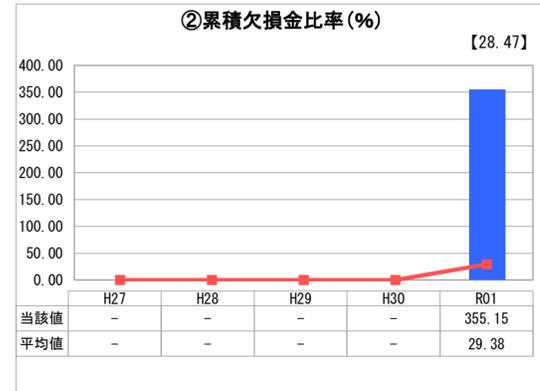
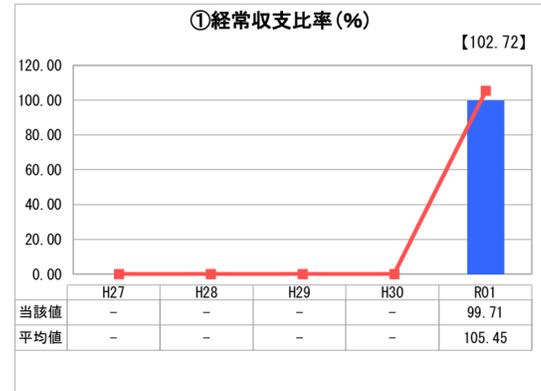
兵庫県 佐用町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	78.07	96.25	3,465	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,640	307.44	54.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,873	28.40	136.37

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

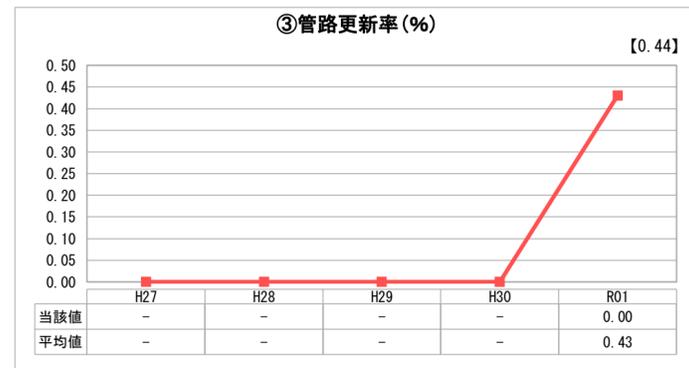
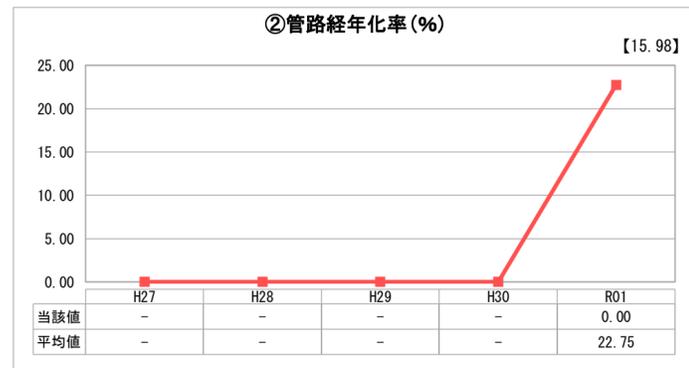
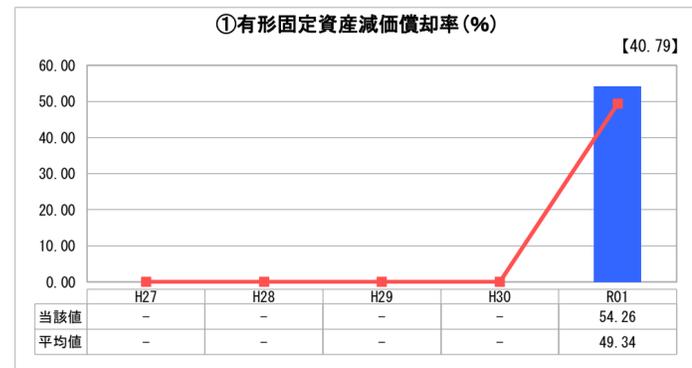
H31年4月より奥海簡水と統合したことに伴い、簡易水道事業（法適用）になった1年目。

- ① 経常収支比率及び⑤ 料金回収率が100%を下回っていることから、給水費用が料金収入等による給水収益を上回っている。山間地という地理的不利な点から投資規模が過大となり維持管理費に比例している。そのため② 累積欠損金が積みあがっている。
- ③ 流動比率は近年では大幅に変化していない。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、奥海簡水の企業債残と、また老朽管の更新工事により新規発行したため増加しているが平均値と同等である。
- ⑥ 給水原価は、管路更新工事等未実施であるが類似団体と比較して高く、維持管理費が増大であることが伺える。原因としては、山間地のため設備が投資多くなり減価償却費が過大となり、送水コストが大きくなっていることが考えられる。
- ⑦ 施設利用率及び⑧ 有収率は類似団体と比較して高く、施設の稼働状況は適正な範囲と言える。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率が54.26%で、施設の老朽化の進行が見られる。
- ② 管路経年劣化率は、管路の耐用年数経過により、今後増加する見込みである。
- ③ 耐用年数経過時に向けて更新の計画をしておく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

山間地という不利な立地条件に住居が点在している。送水にかかるコストが都市部などの人口密度が高い地域に比べると割高になるのが避けられない状況である。
また、過疎化による人口減少が加速化し、今後の給水収益はさらに減少を見込まれる。
経営戦略及びアセットマネジメントを策定により事業統合等、長期的な視野のもとで計画的な経営に取り組み、経営改善に努める。

経営比較分析表（令和元年度決算）

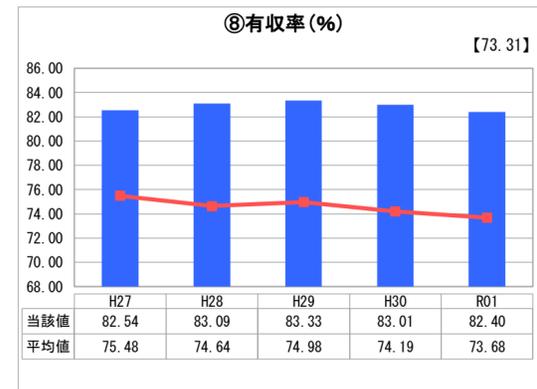
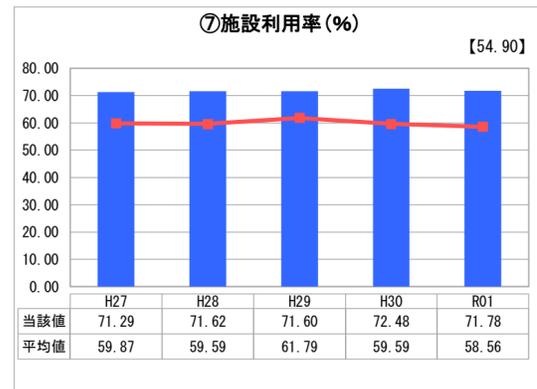
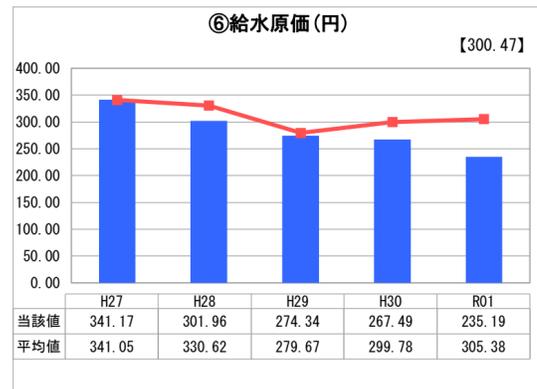
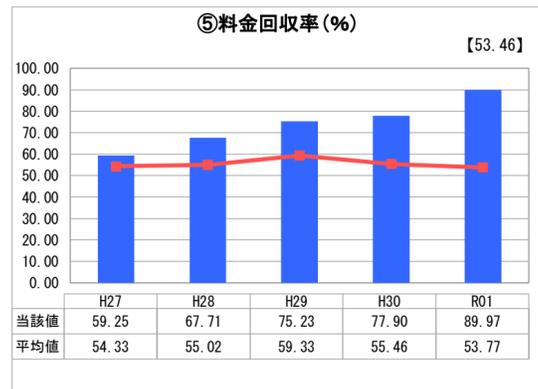
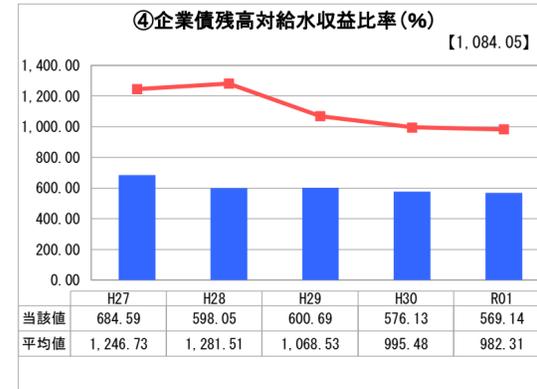
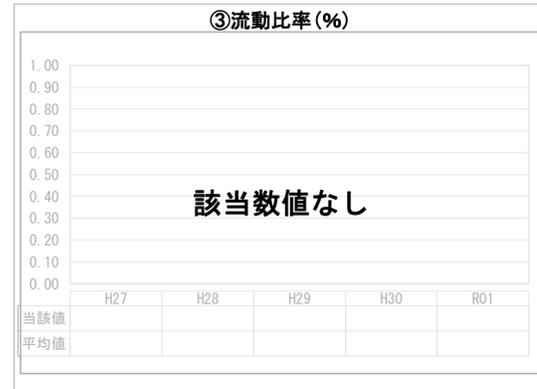
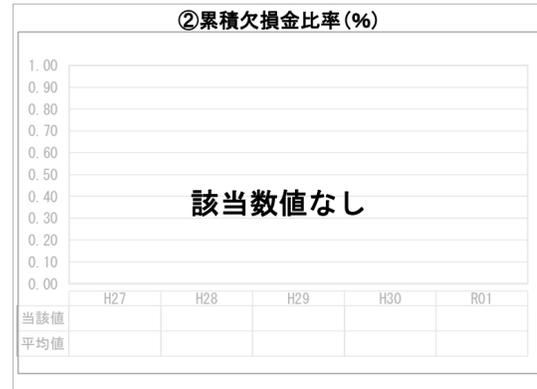
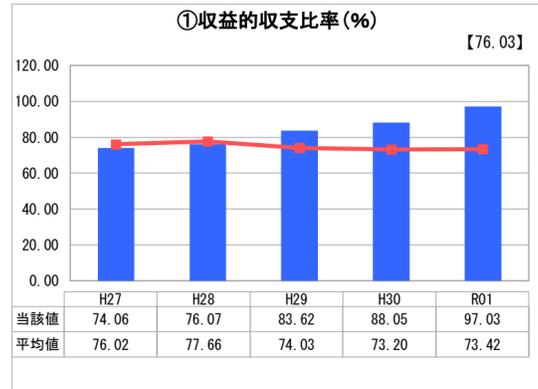
兵庫県 佐用町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.98	3,465	

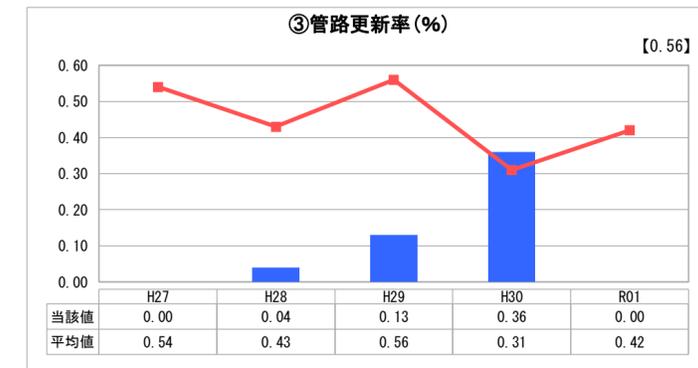
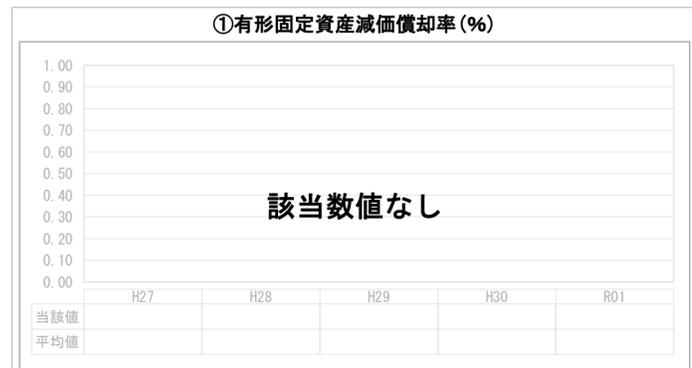
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,640	307.44	54.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,451	43.60	285.57

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は平均値・昨年度の数値よりは、やや高くなってはいるものの、今後、維持管理の節減や料金回収を強化していく必要がある。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比較しても低い。これは新規発行の企業債が減少しているためであるが、今後、老朽化した管路更新に応じ増加していくと思われる。

⑤料金回収率は平均値よりも高く、近年増加傾向だが、一般会計からの財源に依存しているのが現状である。

⑥給水原価は昨年度より低いが、今後、料金回収率や住民サービス向上のため、維持管理の削減等の経営改善の検討を行うことが必要である。

2. 老朽化の状況について

現在のところ、管路移設時等に管路更新を行っているのが現状である。アセットマネジメントの策定、事業統合等を踏まえて更新計画を検討していく必要がある。また、漏水事故が多い箇所については、先攻して更新を図っていく。

全体総括

山間地という不利な立地条件のため住居が点在しており、送水にかかるコストが、都市部などの人口密度が高い地域に比べて割高になるのは避けられない状況である。少子高齢化及び人口減少が進むなか、一般会計の繰入に依存せざるを得ないのが現状である。

今後は、施設及び管路の更新に向けた計画を検討し、効率的かつ効果的な更新を行う必要がある。また、経営戦略の策定により、長期的な視野のもと、計画的な経営に取り組み経営改善に努める。